

重点目標	具体的取組	実現状況の達成判断基準	分析（成果と課題）及び改善対策
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等、志望する大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満 【判定B】	後期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は54.0%であった。内訳は、「ねらい」55.7%、「熱意や工夫」59.6%、「説明や指示」54.3%、「考えさせる場面」57.5%、「興味・関心」42.7%である。前期（53.4%）に比べ微増ではあるが、昨年同期（54.8%）からは微減となった。コロナ禍に対応も含め授業改善に努めていきたい。
	② 授業や総合的な学習/探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (ア) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【判定B】	生徒対象の後期学校評価アンケートにおいて、3教科の肯定的な回答の平均は、71%（英語71%、数学76%、国語65%）であった。1、2年生のうちに主体的な学習について考え、積極的に学習に取り組む姿勢を身につけることにより、基本的な学習や弱点克服、また得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。
		家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定C】	1月現在で、1・2年生で1日の目標学習時間（1年2.5時間以上、2年3時間以上）に達している生徒は49.0%（1年60.8%、2年37.2%）であった。コロナの影響により前期での家庭学習時間が増えたためであり単純な過年度比較はできないが、昨年度より増加している。適正な量・質の課題の提示に努めていくことはもちろん、主体的に家庭学習時間に取り組むための興味・関心を高める授業改善を進めていきたい。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	2年次12月に受検するGTEC（検定版）において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満 【評価A】	12月のGTEC（検定版）の結果で集計する。 B1.2 4名 B1.1 24名 A2.2 214名 合計242名
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず ※ア（難関大15名以上）、イ（金沢大60名以上）、ウ（国公立大200名以上） 【判定A】	合格者数は、難関大学17名、金沢大学62名、国公立大学230名であった。今年度金沢大学の後期試験が廃止され、難関大学、金沢大学ともに合格者数が懸念されたが、難関大学に挑戦する生徒が増え、加えて地元金沢大学合格者数も伸びた。ア～ウのどの指標も達成している。現役の国公立占有率は59.1%で近20年では第1位であった。また、合格率は、難関大学17/42で40.5%、金沢大学は62/98で63.3%であった。1年次難関大希望者が少なかった分、2年次に学年を挙げて意識改革に取り組んだり、そのために、学年全体や一人一人の分析を丁寧に行い、進路指導課と学年が上手く連携できた成果でもあったと感じる。
⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	・限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【判定C】	生徒学校評価より77%の生徒が「限られた時間の中で効率的・効果的な部活動に取り組んでいる」と答えている。この結果は今年度前期と比較し3%下落している。下落した要因としては、後期学校評価の中に部活動を引退した3年生の意見が反映されてしまったと考えられる。昨年度後期と比較すると5%上昇している。部活動が原則平日1日、土日1日の休養日を実施してから、効率的・効果的な部活動が実施されていると考えられる。今後更に改善をしていきたい。	
	・下校時間（平日午後7時）を遵守している生徒が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満 【判定A】	生徒学校評価より93%の生徒が「下校時間を遵守している」と答えている。今年度前期92%、前年後期89%と比較しても、若干ではあるが改善がみられる。各部活動顧問より部活動後も速やかに下校するよう指導できている。下校時間の遵守が文武両道の実践と「進学校における部活動」の追求として重要な項目であることから、今後もさらに徹底していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	・授業評価はA、Bあわせて80%でよいと思う。日本人は5段階評価のいて「4」を付ける傾向がある。 ・漢字が書けない学生が多くて驚いている。ノートを書かないことが影響しているのではないかと。高校では小論文指導はどのように行われているのか。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・授業評価は以前A、Bあわせて実施していたが、ほとんどの項目が90%を超えていた。教科指導力向上のために、Aだけにした経緯がある。 ・小論文指導は個別添削を行っている。自分の意見をまとめて書くことは大切で、生徒を非常に成長させる。		

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成判断基準	分析（成果と課題）及び改善対策
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	・誰に対しても積極的に挨拶していることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 【判定B】 ・きちんとした頭髪・服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 【判定A】	学校評価より「積極的に挨拶している」と答えた生徒は85%（前期82%）、保護者は65%（前期61%）であり、平均は75%となる。生徒、保護者の評価に差がみられる。生徒からは挨拶をしている認識であるものの、「誰に対しても」「積極的に」という点について保護者との差があるように考えられる。今年度は新型コロナウイルス対策としてマスクを使用していることや飛沫防止の観点から元気で積極的な挨拶が難しい状況ではあるが、感染予防対策をした上で挨拶を行い、挨拶により元気で活力ある学校づくりを目指していきたい。 学校評価より「きちんとした頭髪・服装をしている」と答えた生徒は98%（前期97%）、保護者は91%（90%）となり、その平均は95%であった。きちんとした頭髪・服装を心掛けている生徒が多い中、実践できていない一部の生徒も見受けられる。生徒のちょっとした変化に気付き、教職員全体が共通理解をもって指導していきたい。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	・生徒は自転車に乗車しているとき交通ルールを (ア)いつも守っている (イ)だいたい守っている (ウ)あまり守っていない (エ)ほとんど守っていない (ア)の%が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定B】	・学校評価より「いつも守っている」と答えた生徒は56%（前期60%）となっている。昨年度よりも生徒の自転車による事故件数及び交通違反件数は減少している。そのため、必要以上の交通安全に関する呼びかけも減少している。交通事故は一寸の気の緩みで起きるものであり、クラス担任や放送等による呼びかけを行い、生徒が交通安全に対する意識を高められるように努めていきたい。
	③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒が悩み（学習・人間関係・部活動など）が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。	(生徒用) 悩みを相談しやすい（とてもよくあてはまる＋ほぼあてはまる）」と答えた生徒が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定B】 (教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みある生徒の早期発見と対策がとられている（とてもよくあてはまる）と答えた教員が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定B】	・学校評価より「よくあてはまる(21%)」「ほぼあてはまる(41%)」と答えた生徒が前期よりも3%上昇した。 ・学校評価より「よくあてはまる(52%)」「ほぼあてはまる(47%)」と答えた教員が前期よりも9%上昇した。 ・「わからない」と答える生徒の割合が多いのは、相談したことがないからだと考えられる。悩みを打ち明けやすい相談室になるように、集会や相談室だよりを通して、周知徹底できるようにしていきたい。
	④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	スマートフォンの使用時間が1日に1時間以内という生徒が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 【判定D】	・学校評価より「スマートフォンの使用時間が1日1時間以内」と答えた生徒は21%（前期21%）と低い割合である。スマートフォンの使用については、オンライン授業や毎朝の検温や体調など学校との連絡ツールとしても使用する等、生徒にとって身近なものであるには違いない。しかし、使用上のモラルの問題や学習活動の弊害にも関わるため、学校内での使用禁止の徹底や校内巡視により、進学校としての使用方法を実践させたい。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	一冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満 【判定B】	臨時休校中の4月・5月に読書をした生徒は54.6%（昨年は36.7%）、6月1ヶ月間に1冊以上読んだ生徒の割合は25.5%（昨年は28.0%）、9月1ヶ月間に1冊以上読んだ生徒の割合は73.2%（昨年は54.2%）、2月1ヶ月間に1冊以上読んだ生徒の割合は30.4%（昨年は27.8%）で、平均値43.2%（昨年は36.7%）であった。図書館行事を充実させ、各教科の学習指導や進学指導での図書館利用を促進するなど、生徒の読書への関心をより一層高めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価		・英語の授業において、スマートフォンを辞書代わりに使用しているか。 ・ICTが発達して、授業はどのようになっているか。	
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・授業におけるスマートフォンの使用は、事前に計画している時となっている。GIGAスクール構想によりChromeBookが217台届いているので、今後は使えるようになってくると思う。 ・来年から中学校は、タブレット一人一台配備される。中学校に遅れを取らないように、本校でも進めていく。（特に、先生が対応できるように）	

重点目標	具体的取り組み	実現状況の達成判断基準	分析（成果と課題）及び改善対策
<p>3 校是「文武両道」を実践するため、教職員の共通理解のもと、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。</p>	<p>業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>(ア)+(イ)の合計は94%（前回97%）でわずかに減少した。内訳を見ると、(ア)は27%（前回34%）と減少し(イ)は67%（前回63%）と増加であった。中間報告では、さらに(ア)が増加するように2学期以降改善していきたい、としたが、達成できなかった。各課・各学年の連携が円滑に行われなかったところに原因がある。来年度はこの点を改善していきたい。</p>
	<p>② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応しうる教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。</p>	<p>取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満</p>	<p>教員対象の後期学校評価アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は94%（前回97%）であり、内訳はそれぞれ28%（前回24%）、66%（前回73%）であった。（ア）は微増したものの、様々な研修がリモートとなった影響が全体の%を下げたと思われる。ICTの更なる活用やリモート機器活用の充実を含め教育活動を充実させていきたい。</p>
	<p>③ 部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。</p>	<p>部活動に加入している生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満</p>	<p>部活動の加入状況について、運動部は男子76.7%（昨年73.9%）、女子43.7%（昨年41.8%）で合計59.6%（昨年57.8%）であった。また、文化部は男子8.1%（昨年11.9%）、女子52.0%（昨年48.8%）で合計30.8%（昨年30.4%）であった。運動部と文化部を合わせた部活動加入状況は1年生95.0（昨年91.7%）、2年生81.7%（昨年84.7%）で全体としては88.3%（昨年88.2%）であった。部活動の加入状況は昨年同様の加入率であり、学校全体として文武両道を目指す生徒の姿勢がみられる。</p>
	<p>④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生（保護者等）を増やすことによって、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。</p>	<p>本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満 行事 PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問（中学校PTA）</p>	<p>今年度の来校者数は1,874名であった。感染症対策のために来校を控えてもらった影響が大きい。今後は感染症対策をしっかり行い、保護者および地域の方々に参加できる学校行事としていくとともに、学年便りやメール配信等を利用して本校行事に対する保護者への周知を図り、学校への関心を高めていきたい。 PTA総会及び学年別懇談会 0名 1・2年保護者進路説明会 527名 桜高祭 0名 学校公開(教育ウィーク) 28名 3S歩行(含協力者会議) 438名 学校訪問(中学校PTA) 56名(3校) 入学式 457名 卒業式 368名</p>
<p>4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、より効果的な教育活動を実践する。</p>	<p>① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスをとり教育活動の向上に努める。</p>	<p>時間外勤務時間を昨年度より減少させることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p>	<p>(ア)+(イ)の合計は87%（前回90%）であった。2学期以降もWeb入力の活用やスクール・サポート・スタッフの導入等により校務に関する部分は改善できたが、部活動面で新人大会が開催可能となり、時間外勤務時間が増加したことに評価が低下した原因あると判断できる。</p>
	<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・3S歩行は桜丘高校独自の行事で、達成感があり参加意義も大きいのではないかと。全員参加しているのか。</p>	
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・3S歩行はほぼ全員参加している。保護者の協力や参加も得ているので、PTAと連携した行事のひとつとして重視している。</p>		